

一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造

— 小学校国語科における学びがつながることを目指した問いの工夫と振り返りの工夫を通して —

指導主事 岩本 龍二

研究協力員 大津町立美咲野小学校 教諭 西村 朋夕見

1 研究の視点について

(1) 視点1『見方・考え方』に着目した問いの工夫について

児童が「見方・考え方」を働かせ、試行錯誤したり、多様な他者と協働したりしながら、問題を解決していくようにすることを目指し、『見方・考え方』に着目した問いの工夫を設定した。

国語科固有の「見方・考え方」は、新学習指導要領解説国語編では、「言葉による見方・考え方」と示されている。さらに、「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、「学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることである」と示されている。

この「言葉による見方・考え方」が働くようにするには、「なぜ、この表現なのか」「この表現によって何を表したかったのか」等を課題とする言葉に着目した「問い」が有効ではないかと考えた。また、一単位時間及び単元全体の構成を工夫することで、言葉に着目した「問い」を解決するために、試行錯誤したり、多様な他者と協働したりする学習活動の充実が図られると考えた。

(2) 視点2「学びを実感する振り返りの工夫」について

学習活動を通して、児童が自身の成長を実感し、次の活動につなげることができるようにすることを目指し、「学びを実感する振り返りの工夫」を設定した。

学習内容の深まりや広がりであったり、他者との協働による解決場面等の学習方法であったり、これらのよさを児童自身が認識できるようにすることが、学びを実感するために重要であると考えた。そのため、教師側から学びの価値を示すことと、児童自身が学びの価値に気付くことの両面があると捉えた。

そこで、授業を行う教師が適切な場面で学びのよさを価値付けることとした。また、児童自身が学びの価値に気付くことができるよう、自己評価の際に「何

が分かったか」「どのようにして分かったか」「次にしたいことは何か」など、振り返りの視点を明確に示すこととした。

2 研究の実際

検証 小学校第6学年

単元名 感動の中心をとらえよう 「海のいのち」

(1) 本単元の授業設計

① 実態から

学習内容の定着について、平成29年度全国学力・学習状況調査の結果から実態を見取った。国語科のすべての観点について概ね県平均を上回っているものの、B問題では下回っている観点もあり、特に「読む能力」に課題が見られた。本単元に関する指導事項「読むこと」のエについて、平成29年度全国学力・学習状況調査小学校国語B3の「読むこと」エに関する問題では、県平均より低く、「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる」ことに関して課題が見られることが分かった。

また、事前アンケートから、学校生活や学習を通して、自分自身が成長したと感じている児童が多いものの、周りの人（先生や家族、友だちなど）にそれを認められているという実感が伴っていないということが分かった。

これらのことから、物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることは指導事項を身に付ける上で欠かせない活動であると考え。さらに、考えを交流することにより、周りから認められているという実感を持たせることも必要であると考えられる。

② 単元観

本単元は、小学校学習指導要領「読むこと」の目標を受け、「海のいのち」を読んで感じた魅力を伝える推薦文にまとめる単元である。

言語活動として設定した「推薦文にまとめる」ためには、物語が自分に訴えかけてくるメッセージは何

か、魅力は何か理解する必要がある。そのためには、構成や表現に着目して読むことを通して作品の魅力を捉えることが必要である。

これらのことから、本単元において構成や表現に着目して読み、自分が捉えた作品の魅力を考えることは、全ての学びの基本となる言葉の力の獲得へとつながり、未来の創り手となる「豊かな学び」の創造につながるものであると捉える。

③ 指導観及び研究の視点

ア 指導観

○作品の魅力を推薦文にまとめ、伝え合うという目的意識を明確にすることによって、主体的に学ぶことができるようにする。

○推薦文を書くために、作品の魅力を見つけるポイントを明確に示し、それが読みの手がかりとなるように工夫する。

○単元の導入時に推薦文を書く活動を体験する場を設けることで、児童が言語活動の遂行に対する課題意識を持てるようにする。

イ 研究の視点

(ア) 研究の視点 1

- ①筆者の意図や表現の効果についての問いを設定することで、言葉による見方・考え方を働かせて読むことができるようにする。
- ②言葉への着目・焦点化を行うことで、叙述に基づいて考えを出し合うことができるようにする。

(イ) 研究の視点 2

- ③ノートのまとめ方を示し、最初の読みと比べて、読みが広がり深まったことが分かるようにする。
- ④学習内容だけでなく、資質・能力についても振り返らせることで、「何ができるようになったか」を意識できるようにする。

④ 単元の目標及び評価規準

単元の目標	「海のいのち」を読み、登場人物の相互関係や場面の描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめ、伝え合いながら、さらに自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
国語への関心・意欲・態度	①作品の魅力を見つけるために、内容や要旨を捉え、自分の考えを明確にしながらか文章を読もうとしている。
読む能力	①物語の特徴を把握して推薦するために、登場人物の相互関係から人物像や役割を捉えている。(エ) ②場面の展開に沿って読み、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目しながら、作品を推薦するために自分の考えをまとめている。(エ) ③推薦の文章を読み合い、感じたことや考えたことがどのように共通していたり相違したりしているのかを明らかにし、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ)

言語についての知識・理解・技能	①文章を特徴づける語句に気付き、語句と語句との関係を理解して読んでいる(イ(ハ)) ②比喩やユーモア、省略、倒置、対句など、文章に表れる表現の工夫に気付き、文や文章を読んでいる。
-----------------	--

⑤ 単元計画

単元を貫く問い：「海のいのち」の作品の魅力を推薦カードにまとめ、伝え合おう。

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	2	1 物語を通読して作品の魅力についての推薦カードを書き、学習課題について考える。 2 物語の構成や内容を確かめる。	【関心・意欲・態度】①：ノート 【研究の視点1】 ①作品の魅力を推薦文にまとめ、友だちと伝え合うという目的・相手意識を明確にする。
二	6 本時5/6	3 父の人物像から、太一の思いを読む。 4 与吉じいさの人物像から太一の思いを読む。 5 母の言葉から太一の思いを読む。 6 クエに対する太一の思いについて話し合う。 7 山場での太一の心情の変化について話し合う。 8 その後の太一の思いを読む。	【読む能力】①②：ノート、学習シート 【研究の視点1】 ②着目する言葉を示すことで、課題を焦点化する。 【研究の視点2】 ③考えを比較することでお互いの考えのよさに気付けるようにする。
三	2	9 作品の魅力を伝える推薦文を書く。 10 推薦文を紹介し合い、学習のまとめをする。	【読む能力】②③：ワークシート 【研究の視点2】 ④学習内容だけでなく、資質・能力についても振り返らせる。

(2) 指導の実際 (7/10 時間)

過程	学習活動及び指導上の留意点
導入	1 本時の目標(めあて)を確認する。 ○前時の学習を振り返り、本時の学習内容について見通しを持たせるようにする。 学習目標(めあて) 山場の太一の心情の変化について話し合おう。
展開	2 言葉に着目する。 ○教材提示の工夫を行う。 ○「泣きそうになりながら」「ふっとほほえみ」「笑顔を作って」のそれぞれの言葉が表す一般的な意味を確かめることで、心情の変化に気付くヒントとなるようにする。 3 課題について話し合う。 (1) 自分なりの考えをもつ。 どうして、太一はこんなに表情が変わったのだろう。 【研究の視点1】① 筆者の意図や表現の効果についての問いを設定することで、言葉による見方・考え方が働くようにする。 (2) 互いの考えを交流する。 ○相互の考えを出し合い、1つにまとめるという、話し合いの目的を明確に示す。



整理	(班での交流の一部) 海のいのちを殺すわけにはいかない。パニックになって表情がこんなにも変わったのだと思います。もう一回読んでみると、本当にそんなパニックみたいになっていたのすごいと思いました。	
	(全体での交流の一部) 一人前の漁師になりたいが、殺してくださいと言われていて、うで殺す気が失せた。それで泣きそうになっているときに、これを殺さない方がむしろ一人前の漁師になれるのだと考えると、ふっと微笑むことができた。でも、自分の中でその理由について悩んでいるが、それを押し切って笑顔を作ったから、この表情になりました。 似ている意見です。僕も太一は迷っていると思います。父を殺されたその悲しみも背負って、それでまた、いろんな気持ちがふくれ上がってきて迷っているから、泣きそうになったり、ふっと微笑んでいるんじゃないかと思います。	
	評価：思考・判断・表現（ノート・観察） B基準 叙述に基づき、太一が悩み苦しみながらも「海のいのち」を守ることの大切さに改めて気付いていく心情の変化を書いている。	
整理	4 学習したことをまとめ、振り返る。 ○振り返りの視点を示し、次時への意欲を高める。	

(3) 検証結果と考察

① 「豊かな学び」について

表1は、豊かな学びに関する変容について「学習活動の充実」と「成長の実感」の2つの観点で調査した質問紙調査の結果である。表2は、単元末に行った「どんな国語の力がついたと思うか」について自由記述による振り返りを行ったものを習熟度別に抜粋したものである。

本実践の検証結果とその考察について、研究の視点により述べる。

表1 学び全体の変容 (n=35) 4件法

有意確率**<0.01 *<0.05

	質問	事前	事後	有意確率
学習活動の充実	国語の学習のとき、言葉に着目しながら問題を解決しようとしている。	2.83	3.12	0.028*
	国語の学習のとき、様々な解決方法を試しながら、問題を解決しようとしている。	2.51	3.03	0.001**
	国語の学習のとき、一人一人ができることを生かしながら、友達や先生と一緒に問題を解決しようとしている。	2.71	3.15	0.001**
成長の実感	国語の学習のとき、「分かるようになった」「できるようになった」と感じる。	3.03	3.12	0.189
	これまでに学んだことを生かして国語の学習に取り組んでいる。	3.06	3.00	0.285
	国語の学習で学んだことをこれからの学習や生活に生かそうとしている。	2.97	3.12	0.091

ア 研究の視点1について

有意に向上が見られたのは、表1の上記3項目であった。「言葉による見方・考え方」に関するものとして設定した「国語の学習のとき、言葉に着目しながら解決しようとしている」においては、表2に、「最初に書いたときは、何を書いたらいいのか分からなかったけど、物語の言葉に注目したらいろいろ書けた」と言葉への着目による効果についての記述も見られたことから、「言葉による見方・考え方」による言葉への自覚が高まったことが考えられる。

また、同様の記述に「物語で自分の考えを持てたのは、友達とかほかの人の考えを聞いたり、先生とかも一緒に考えてくださったりしたから」とあるように、単元を通して行った協働解決の学習活動が意識の変容につながったと考える。

イ 研究の視点2について

表1から、概ね成長の実感についての意識の変容が見られたものの、「これまでに学んだことを生かして(後略)」についての変容は見られなかった。ただ、「国語の学習で学んだことをこれからの学習や生活に生かそうとしている」については、3項目の中で相対的に変容が見られたことから、今回取り組んだことにより、「これからの学習に生かそうとする」ことについては期待が持てることが分かる。

また、表2に「推薦カードに前は書けなかったことを、次に書いたときにはしっかりと母との会話なども書けました」とあることから、「できるようになった」という自身の成長に気付いていることが分かる。

表2 習熟度別単元末の自由記述による振り返り

習熟度	自由記述内容
低	最初から最後まで読んで、太一の表情が変わるのは一つしかなかったので、表情が変わるところを意識してみることができた。
低	推薦カードに前は書けなかったことを、次に書いたときにはしっかりと母との会話なども書けました。
中	物語の人物の気持ちや人物像を考えられるようになった。それは、物語で自分の考えを持てたのは、友達とかほかの人の考えを聞いたり、先生とかも一緒に考えてくださったりしたから。
中	最初に書いたときは、何を書いたらいいのか分からなかったけど、物語の言葉に注目したらいろいろ書けたので、物語の言葉の表現に注目すれば書ける。
高	同じ言葉でも印象が違ったので、一言一言に注目するようになった。
高	先生が「この言葉に着目してください」と言ったので、何について話し合えばいいのか分かりやすくて、友達もたくさんの意見を出してくれたので、色や表情を意識したり、自分が持っていなかった意見に納得したりして深まった。

② 「未来の創り手」について

表3は、「未来の創り手」に関する変容について見取る質問紙調査の結果である。本実践の検証結果とその考察について述べる。

表3 「未来の創り手」に関する変容 (n=35) 4件法
有意確率**<0.01 *<0.05

質問	事前	事後	有意確率
自分は、学校生活や学習を通して、自分自身が分かるようになった、できるようになったと思う。	3.34	3.20	0.100
自分は、学校生活や学習を通して、周りの人が分かるようになっていて、できるようになっていると思う。	3.48	3.44	0.223
自分は、学校生活や学習を通して、周りの人から分かるようになっていて、できるようになっていると認められていると思う。	2.69	2.61	0.411
自分は学校生活や学習を通して、学んだことをもとに、自分自身が主体的になったと思う。	3.05	3.11	0.300
自分は、周りの人が学校生活や学習を通して、学んだことをもとに、主体的になったと思う。	3.34	3.26	0.285

表3から、「未来の創り手」に関しては、「自分は学校生活や学習を通して学んだことをもとに、自分自身が主体的になったと思う」については、向上が見られたものの、全体として変容が見られなかったことが分かる。

「未来の創り手」となるための資質・能力については、明確に設定していないため、今後の精査が必要である。また、資質・能力の育成については、単元というまとまりだけでなく、学年を通じて見取ることも必要であるため、意識調査の調査期間についても検討が必要である。

③ 学習内容について

単元を通して「推薦カード」にまとめる言語活動を行った。本単元の学習内容の定着を図るために、平成25年度の全国学力学習状況調査の問題を基に実態調査をした結果が表4である。

表4 単元終了後の調査問題による実態調査

問題	検証後 正答率	H25年度 全国正答率
実際の推薦文をもとに、どのような相手に薦めているかを記述する問題	73.5%	50.0%
実際の推薦文をもとに、どのような理由で相手に薦めているかを記述する問題	38.2%	45.4%
実際の推薦文をもとに、どのような理由で相手に薦めているかを記述する問題	35.3%	44.8%
実際の推薦文をもとに、どのような読み方の違いがあるかを選択する問題	82.3%	52.1%

平成25年度当時の全国の正答率と比較すると、最後の「どのような読み方の違いがあるか」について学習内容の定着が図られたことが分かる。このことは、表2に「何について話し合えばいいのか分かりやすく、友達もたくさんの意見を出してくれたので、色や表情を意識したり、自分が持っていなかった意見に納得したりして深まった」とあることから、単元を通して、読み方を意識した学習を進めた結果であると考ええる。

3 研究のまとめ

今回、小学校国語科では、研究の視点によって「豊かな学び」につながったかを検証した。

(1) 成果

これまで述べてきた表1の変容から、研究の視点による取組により、「豊かな学び」へつながったと考える。特に、視点1の『「見方・考え方」に着目した問いの工夫』による学習活動の充実に成果があったことが分かった。

一方、学習内容の定着についても成果が表れたことが分かった。本文「2 研究の実践(1)①実態から」において記述した「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる」ことへの課題に対して、解決を図るものであると考える。

(2) 課題

視点2の「成長を実感する振り返りの工夫」については、視点1ほどの変容が見られなかった。児童が「分かった」「できた」を実感する学習展開と併せて、振り返りのタイミング、振り返りの手法などについて考える必要がある。

また、「未来の創り手」に関する資質・能力については、更なる精査が必要であることから、文献研究により「未来の創り手」としての姿を明確に設定することが求められる。このことにより、研究テーマに迫る実践的な研究が行われると考える。

《引用・参考文献》

- ・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説 国語編』
- ・中央教育審議会答申（2016）『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』
- ・文部科学省『全国学力・学習状況調査 過去問題及び質問紙調査』